

日
ソ
中
立
条
約

REEL No. A-1230

0310

アジア歴史資料センター

No.

海洲の度
 協約代表の府府行ノ全上
 昭和十五年七月 政府ハ事案ハ解決シ日本關係大鉅化ニ備ヘ世界
 不信任條
 約締結
 提議
 シテ
 大島ルニ計心セテ國策ノ萬全ヲ期スル為 野島ヲ解決ヨリ一歩ヲスルメ
 行ハシメテ政府的取極ヲ成スルニトシテ東瀛大連ヲ以テ中東條約
 提議セシメテ以テ外答
 イ一九二五年、日ソ基本條約ヲ以テ兩國關係ノ基礎ヲ定メテ之ヲ
 以テ東亞之西國間ノ平和的親善關係ヲ維持シ且相互ニ優
 待的保全ヲ圖スルニ
 締約國ノ一方が第三國ヨリ攻撃受ケルニ至ル場合ニ他方ハ全筋
 中東條約中中東ヲ字ル
 八月ノ側ノ返答
 利得スルハ日本ノシ 重大ナル代償ガ成ル
 支拂行ナヤム
 昭和十五年十月(近衛外相、杉岡外相)建川大連 著作
 蘇獨不侵條約下目外答ノ不侵條約ヲ提
 議スルニ於テ 北極地ノ利權ヲ解明シテ西亞諸島
 一、代價 五年間十萬噸ガ石油ヲ供給スル
 支拂行ナヤム
 後日成立セシ中立條約ト同日シテ之ヲ提議スルニ但シ 附屬的
 議定書ニ於テ 北極地ノ利權ヲ解明シテ西亞諸島
 一、代價 五年間十萬噸ガ石油ヲ供給スル
 支拂行ナヤム
 三、昭和十六年四月 杉岡外相訪歐ノ時 薩摩エヌコリニテ 日ソトシテ
 一リシト交遊
 四月二日、六日
 四月八日、十二日
 四月十二日、十六日
 四月十八日、二十二日
 四月二十五日、二十九日
 五月二日、六日
 五月九日、十三日
 五月十六日、二十日
 五月二十三日、二十七日
 六月六日、十日
 六月十三日、十七日
 六月二十日、二十四日
 七月四日、八日
 七月十一日、十五日
 七月十八日、二十二日
 七月二十九日、八月二日
 八月九日、十三日
 八月十六日、二十日
 八月二十七日、三十一日
 九月三日、七日
 九月十四日、十八日
 九月二十一日、二十五日
 十月二日、六日
 十月十三日、十七日
 十月二十四日、二十八日
 十一月一日、五日
 十一月十二日、十六日
 十一月二十三日、二十七日
 十二月四日、八日
 十二月十五日、十九日
 十二月二十六日、三十一日

總力戰研究所

日本標準規格B5判 20×10)

No.

日蘇中立條約ニ附シテ
 交渉經過
 海洲の度
 協約代表の府府行ノ全上
 昭和十五年七月 政府ハ事案ハ解決シ日本關係大鉅化ニ備ヘ世界
 不信任條
 約締結
 提議
 シテ
 大島ルニ計心セテ國策ノ萬全ヲ期スル為 野島ヲ解決ヨリ一歩ヲスルメ
 行ハシメテ政府的取極ヲ成スルニトシテ東瀛大連ヲ以テ中東條約
 提議セシメテ以テ外答
 イ一九二五年、日ソ基本條約ヲ以テ兩國關係ノ基礎ヲ定メテ之ヲ
 以テ東亞之西國間ノ平和的親善關係ヲ維持シ且相互ニ優
 待的保全ヲ圖スルニ
 締約國ノ一方が第三國ヨリ攻撃受ケルニ至ル場合ニ他方ハ全筋
 中東條約中中東ヲ字ル
 八月ノ側ノ返答
 利得スルハ日本ノシ 重大ナル代償ガ成ル
 支拂行ナヤム
 昭和十五年十月(近衛外相、杉岡外相)建川大連 著作
 蘇獨不侵條約下目外答ノ不侵條約ヲ提
 議スルニ於テ 北極地ノ利權ヲ解明シテ西亞諸島
 一、代價 五年間十萬噸ガ石油ヲ供給スル
 支拂行ナヤム
 後日成立セシ中立條約ト同日シテ之ヲ提議スルニ但シ 附屬的
 議定書ニ於テ 北極地ノ利權ヲ解明シテ西亞諸島
 一、代價 五年間十萬噸ガ石油ヲ供給スル
 支拂行ナヤム
 三、昭和十六年四月 杉岡外相訪歐ノ時 薩摩エヌコリニテ 日ソトシテ
 一リシト交遊
 四月二日、六日
 四月八日、十二日
 四月十二日、十六日
 四月十八日、二十二日
 四月二十五日、二十九日
 五月二日、六日
 五月九日、十三日
 五月十六日、二十日
 五月二十三日、二十七日
 六月六日、十日
 六月十三日、十七日
 六月二十日、二十四日
 七月四日、八日
 七月十一日、十五日
 七月十八日、二十二日
 七月二十九日、八月二日
 八月九日、十三日
 八月十六日、二十日
 八月二十七日、三十一日
 九月三日、七日
 九月十四日、十八日
 九月二十一日、二十五日
 十月二日、六日
 十月十三日、十七日
 十月二十四日、二十八日
 十一月一日、五日
 十一月十二日、十六日
 十一月二十三日、二十七日
 十二月四日、八日
 十二月十五日、十九日
 十二月二十六日、三十一日

總力戰研究所

日本標準規格B5判 20×10)

No.

總力戰研究所

本日署名せられた中立條約ニ關係するハ通商協定及漁業
 條約ノ極テ速ニ締結せらるベキコトヲ期待シ且モ至ルモノナラバト
 然ニ且取テ速ニ裁會ニ撥下及テ於テ兩國間ノ友好的
 關係ノ維持ニ資セラル有ル問題ヲ除去スル為テ九月二十五
 年十二月十四日ロンドンニ於テ四重友誼條約ニ其ノ北
 極ニ於ケル利權ノ解消ニ關スル問題ヲ裁會ニ解決スル
 極大ニ相互融通ノ精神ヲ以テ努力スベキコトヲ樹下ニ陳
 述シタル第一ノ有レ候

liquidation

日本標準規格B5判 20×10

No.

總力戰研究所

シカルニ進子ヨリ十二月九日午前二時七分午後二時七分
 都合ノヨイトキスリシシ合日見レタリト傳ヘ奉ル
 四月十二日コスターリシシ合日見
 松本直ヨリ外電電報戰ヲ行フコトヲ得ルハ残念ナルモ個々
 即ち至ホハ漸次解決シテト述ベタルニ又ハ松ノ頭ヲ見テ其
 下ハ約束せられたる案中サハ電報戰ヲセラザラザリ答
 條約トモ明書ノハ直ニトスル 羊公信ニ 解消ノ文字
 入テマスト
 四月十三日 朝甲

* 朝印ノ全取手仕
 ン間ニ合セル者ハ
 十二月八日 曜
 ナリキ。

日本標準規格B5判 20×10

No.

Table with multiple columns containing handwritten notes and dates. The text is dense and appears to be a transcription of a document.

總力戰研究所

日本標準規格B5判 20×10

松岡大相模會ニ於テ松岡大臣、説明ニ由リ

過般ノ獨伊訪問ニ際シ本大臣ハ「モスコ」ヲ素通りニスル譯ニモ行カズ「シベリア」鐵道旅行ニ對スル先方ノ好意ヲ謝スル爲往途ニ於テ「モスコ」ニ下車シ「モロトフ」外相ニ會フコトトシタル處元來人ニ會フコトヲ好マザル「スターリン」ヨリ會見ヲ求メ來レリ（先年國際聯盟總會出席ノ爲「モスコ」通過ノ際「スターリン」ニ直接會見シテ「ソ」聯ノ滿洲國承認ト引換ヘニ日「ソ」不侵略條約締結方ニ關シ交渉セント考ヘタルガ當時ハ遂ニ此ノ計畫ヲ果サザリシ經緯アリ）「モスコ」ニ於テハ「モロトフ」ニ會ヒテモ話ハ付カズ「スターリン」ニ直接會見セザレバ駄目ナリトノ話モ豫テ聞キ居リタルニ依リ且又「ソ」聯ノ猜疑心ヲ緩和スル必要アリトモ考ヘテ「スターリン」ト會見スルコトトセリ尤モ會談ハ日「ソ」國交調整ノ必要性、「アジア」問題全般等ニ關スル一般の雜談ニ過ギズ「ソ」聯ノ對支援助ニモ一言觸レ置キタリ

日本標準規格B5

外務省

「モスコ」ヲ出發シテ獨伊ヲ訪問シタル處「モロトフ」ガ伯林ヲ訪問シタル當時トハ情勢ガ變リ居ルニ驚キタリ「モロトフ」ガ伯林ヲ訪問シタル際「リッペン」ヨリ「ソ」聯ノ三國條約締約國側ヘノ同調方ヲ求メタル當時トハ形勢一變シ獨ハ何時ニテモ「ソ」聯ヲ打ツ用意アリト云ヒ居リタリ右ハ「バルカン」情勢ノ變化ニ基因スルモノナルベシ本大臣ハ獨ノ「バルカン」政策ガ餘リニ好調ヲ示シ居ルヲ見テ右ハ獨「ソ」間ニ相當ノ了解アルモノト豫想シ居リタルニ「リッペン」ノ話ニ依レバ「モロトフ」ニ對シ殆ンド何等ノ「コミットメント」ヲ與ヘ居ラズ獨ハ「フィンランド」「ルーマニア」「ブルガリア」「トルコ」等何レニ關シテモ「ソ」聯ニ言質ヲ與ヘ居ラズト云フ（間接ノ情報ニ依ルモ右ハ略確實ナルガ如シ）獨ハ東「プロシア」ニ百四十萬ノ精銳ヲ集結シテ東方ヲ睥睨シ居レルヲ以テ「ソ」聯トシテモ獨ヲ刺戟スルガ如キ行動ニハ出デザルベク目下ノ所「ソ」聯ヨリ積

外務省

(日本標準規格B5)

極的ニ手ヲ出サザル限リ獨「ソ」ノ衝突ハナカルベシト思ハル絨上ノ如キ獨「ソ」關係ノ變化ヲ目撃シテ本大臣ハ日「ソ」間ノ話合ハ容易ニ繼ラザルベシト考ヘタリ「リッペン」モ見込ナカルベシトノ意見ナリ尤モ「リッペン」ニ對シテハ先方ヨリ話ニ乗ツテ來レバ勿論ヤルト申置キタリ「ムソリーニ」ニ對シテモ同様ニ話置キタリ其處デ獨伊訪問ノ歸途再ビ「モスコ」ニ立寄り正式ニ條約締結交渉ニ入りタル次第ナリ四月七日午後「モロトフ」ト會見我方ハ建川大使提案ノ不侵略條約ヲ主張セルモ「ソ」側ハ中立條約及北樺太利權解消ヲ固執セリ本大臣ハ北樺太利權問題解決ノ唯一ノ方法ハ我國ノ北樺太買收ノ一途アルノミト應酬セルモ「モロトフ」ハ自說ヲ擯ゲズ七日ノ會談ヲ終レリ翌々九日第二回會談ニ於テ我方ハ情勢ノ變化ニ鑑ミ不侵略條約案ヲ撤回スル旨ヲ述べ且附屬議定書ヲ除キ中立條約ノミニ署名シテ外交電擊戰ヲヤツテハ如何ト提議セルモ「モロトフ」

外務省

(日本標準規格B5)

之ニ應ゼズ十日ハ息拔ノ爲「レニングラード」ヲ見物シ十一日「モ
ロトフ」ト最後ノ會談ヲ行ヒタリ先方ハ北樺太利權解消ニ關スル
議定書ヲ飽ク迄固執スルニ對シ本大臣ハ妥協案トシテ本件ハ「モ
ロトフ」宛半公信ヲ以テ其ノ解決方ニ努力スル旨ヲ申入ルコトト
シテハ如何ト提議シタルモ纏ラズ遂ニ「モロトフ」トノ三回ノ會
談ハ不調ニ終レリ依テ本大臣ハ十三日午後「モスコ」トノ出發ノ腹
ヲ決メ先方ニ其ノ旨ヲ申傳ヘタル處十二日ノ午前ニテモ午後ニテ
モ本大臣ノ都合ノ良キ時間ニ「スターリン」ガ會見シ度キ旨ヲ申
込ミ來レルニ付暇乞旁々十二日午後「スターリン」ト會見スルコ
トトセリ本大臣ヨリ電撃戰ヲ行フコトヲ得ザルハ甚ダ残念ナルモ
兩國間ノ個々ノ懸案ハ漸次解決シ度キ旨ヲ述ベタル處「スターリ
ン」ハ本大臣ノ顔ヲ眺メ貴下ハ約束ヲシタラ守リサウダカラ電撃
戰ヲ行フベシト答ヘタリ條約及聲明書ハ直ニ纏リタルガ半公信ノ
方ハ附屬議定書ノ實質ヲ書翰中ニ書入ルルコトヲ要求セルヲ以テ

外務省

(日本標準規格B5)

拒絕シ結局 Liquidation ノ字ヲ挿入スルコトニテ折合ヒタリ但シ
右字句ハ解消ノ意ニモ取レルモ本大臣ノ意見タル北樺太ノ買収ヲ
拋棄シタルモノニ非ズ斯クシテ「スターリン」トノ間ニ忽チノ中
ニ交渉ノ妥結ヲ見タル次第ナリ

外務省

(日本標準規格B5)

(國定規格B5(21×30)用)

蘇聯對外政策(前卷)三蘇聯記(三八一三九四頁)

大日本帝國政府

蘇聯ノ窮極ノ目標ハ共產主義革命ニアル。一國社會主義我ノ建
設ヲモテス。ソノ政策ヲ以テ直ニコノ窮極ノ目標ノ放棄ト見ルハ
甘カク早計ナリ。第一次歐洲戰後ニオケル世界資本主義ノ相
對的安定期以來、ソ聯ノ理論家ガソ聯ハ資本主義國ノ包
圍下ニアリ不漸ニソノ政敵ノ危險ニカサレテキルト録述シ、カ、ル
環境ノモトニソノ流れノ承ス革命論ハスデニソノ具體性ヲ失
何シテモ世界革命ノ基地トシテソノ強クシユニ一國ノ
範圍ニオイテマツ社會主義體制ヲ確立スル必要アリトシテ。シ
カモコノ社會主義國ハイハ、敵性國ノ包圍下ニアル以上、何
時敵ノ政敵ヲ受ケテモソノ政敵ヲ退シ得ル抗戰力ヲ具備シヤケレ
バナラズ、戰力ノ物質的基礎トシテノ豐富ナシ生産力ガ涵養セ
ルハナラズ、ソレヲコシ生産力擴充ハ世界唯一ノ社會主義國

(國定規格B5(21×30)用)

大日本帝國政府

家トイフ特殊條件ノモトニ於テハ、當然社會主義ヲウケルキ一方向
ソノヲハナラズ、ソノ窮極ノ目標トシテハ、資本主義世界トシテ
主義的世界革命ヲ達成スルカタクニハ、資本主義世界トシテ決
戰ヲ覚悟シヤケレバナラズ。ソノカウテソノ生産力ハ日最高度ノ資本
主義國ヨリモ高ク、ソノ戰力ハ日最強ノ資本主義國ヨリ強ク、ソ
ノ要請セラル。ソレガタメ、三次ニワタル五年計畫及ソレニ續クヘク被
定セラレ十五午計畫ニ於テ民衆ノ消費生活ノ犧牲トスルコトヨリ、何
ヨリモマア綜合的戰力ノ基礎タルベキ生産力ノ急激ナ擴充ヲ企
圖スルコトニ一方對外政策ニオイテハ可能ナル限り、アラエル手段ヲツク
シテ強大資本主義國トノ摩擦衝突ノ回避ニツトメテ來タノ
テアル。所謂「スターリンノ平和政策」ハソノ限リニオイテハ、マコトニ現
實のナリ平和政策レテマコトニ思想的ナ戰争否定ニ基クテ平和
政策トシテハシテナシ。

大日本帝國政府

スガヤイ。積極的ニ謀略ヲ施シテ資本主義國同志ノ關係ヲ
 惡化セシメテソノ政敵ヲシテ他ニシテラコトモアレバ、各國ノコミニセル支那
 活動セシメテ對ソノ行動ヲ牽制サレタトモアレバ、ソノ外交ノ名ヲ
 以テ呼ハルコトヲ、國際聯盟ニ加入シテ當時外交、一見社會主義
 主義ト安協トモ見エル一九三五年以來ノ人民戦線戰術等々、スヘテ
 日本ヲシテ海ヲモテアル。

サラス、一九三九年春カラ英佛トノ間ニ進マシテ軍事同盟締結
 ノ交渉ヲ對獨逸國陣權成ノ工作ノカゲニ、私カニドイツニ手ヲサシメ
 ベテソレニ八月二十三日、突如トシテ獨逸ノ不可侵條約ヲ締結シ世界
 ヲ驚倒セシメタ場合、如キ、ソノ對ソレハ英佛對獨逸ノ力ハバシマスヲ
 慎重ニ考慮シタ上、コノ時機ヲ擱シテドイツノ側ニ分銅ヲ投ス
 六歐洲ノ戰火ノ中ニアタキコシ得ルトイフ見通シ得テ上テノ行
 動ト解セル。カナル意味デ、敵トテ敵トカ相博ツ歐洲戰事ノ
 効果ハマサニソノ所ノ思フ壹テアツタ。

(固定規格55(2)X規格)

大日本帝國政府

一九三九年九月、第二次歐洲戰事ガ勃發スルヤ、ソノ日本トノ間ニ
 ノモシハシ停戰協定ヲ締結シテソノ東方接隣地帯ヲ一マツ安定セシ
 メ、直ニポーランド進駐ヲ開始、ソノ東洋分ク占領、ソレヲソノラントシテ
 攻勢ヲシテソノ地帯一帯ヲ奪取、（四〇年三月、ドイツガ西部戰線
 攻勢ヲシテソノ地帯一帯ヲ奪取、）ニ大規模ナ作戦ヲ展開スル間隙ヲネラシテソノ力ヲヘッサラビヤシ
 及北アフリカガイナク奪取、（ソノ北アフリカガイナク奪取、）沿ヘルト三國ニ赤軍ノ圧力ヲ以テ社會主
 義革命ヲ起シメ間モソノソノニ締入シタ。
 カサソノハ續ニソノ失地回復シ、（ソノ失地回復シ、）信託ヲ以テ資本主義ノ程程カラ解
 放シテソノ社會主義ノ世界ヲ着々擴大シテ行フタ。コレガ
 ソノ防衛ノタメト社會主義世界ノ擴大テアリ何時起ルトモ知ラス
 資本主義國トノ戰事ニソナルタメノ戰界地点ノ確係ダツタコ
 トハ疑ライレナイ。コレニ併行シテソノ所ハソノ綜合的戰力増強ノアツ
 可能ナル所リ、指道シテ道ジタ。

ソノ後モ、ドイツノバルカン工作ニオイテ、或ハドイツ工作ニ際シ、ソノ前ニ立テ

(固定規格55(2)X規格)

大日本帝國政府

一、獨逸ノ反目（フレンケン方面）
 一九〇〇年（昭和十五年）九月二十七日三國條約成立。十月二十日派加入。
 十一月二十三日トルコ加入。十一月二十四日スウェーデン加入。一九〇一年
 （昭和十六年）三月一日加入。三月三日ソ連加入。三月三日ソ連加入。三月三日ソ連加入。
 此後條約加入ノ主要成立モリト見ルヤ、イギリスノ陰謀奏效シテ、モシエ、ドイツ
 子將軍ノアトテ、エニヨツテ「エニヨツテ」國ノ態度納、獨逸ノ關係ハ逆轉
 シテ兩國ノ危機迫ルヤ、ソ連ハ側面ヨリ「エニヨツテ」新外閣ヲ鼓吹シ、
 把軸國ニ入ルコトヲ阻止スル政治的意圖ヲ以テ四月五日「モスクワ」
 ニ於テソ連「エニヨツテ」間ニ不侵條約ヲ締結シテ示威ヲ行フ。同
 條約第三條ニハ締約國ノ一方カ第三國カラ侵略ヲ受ケテ場
 合他ノ締約國ハ被侵略國トノ友好關係ヲ維持スル政策ヲ
 堅持スト約シ別ニ共同宣言ヲ發表シテソ連「エニヨツテ」兩國ノ平和

子案ノ殺害の確たる
 一、獨逸ノ反目（フレンケン方面）
 一九〇〇年（昭和十五年）九月二十七日三國條約成立。十月二十日派加入。
 十一月二十三日トルコ加入。十一月二十四日スウェーデン加入。一九〇一年
 （昭和十六年）三月一日加入。三月三日ソ連加入。三月三日ソ連加入。三月三日ソ連加入。
 此後條約加入ノ主要成立モリト見ルヤ、イギリスノ陰謀奏效シテ、モシエ、ドイツ
 子將軍ノアトテ、エニヨツテ「エニヨツテ」國ノ態度納、獨逸ノ關係ハ逆轉
 シテ兩國ノ危機迫ルヤ、ソ連ハ側面ヨリ「エニヨツテ」新外閣ヲ鼓吹シ、
 把軸國ニ入ルコトヲ阻止スル政治的意圖ヲ以テ四月五日「モスクワ」
 ニ於テソ連「エニヨツテ」間ニ不侵條約ヲ締結シテ示威ヲ行フ。同
 條約第三條ニハ締約國ノ一方カ第三國カラ侵略ヲ受ケテ場
 合他ノ締約國ハ被侵略國トノ友好關係ヲ維持スル政策ヲ
 堅持スト約シ別ニ共同宣言ヲ發表シテソ連「エニヨツテ」兩國ノ平和

（國定規格時52X335規格）

大日本帝國政府

一、獨逸ノ反目（フレンケン方面）
 一九〇〇年（昭和十五年）九月二十七日三國條約成立。十月二十日派加入。
 十一月二十三日トルコ加入。十一月二十四日スウェーデン加入。一九〇一年
 （昭和十六年）三月一日加入。三月三日ソ連加入。三月三日ソ連加入。三月三日ソ連加入。
 此後條約加入ノ主要成立モリト見ルヤ、イギリスノ陰謀奏效シテ、モシエ、ドイツ
 子將軍ノアトテ、エニヨツテ「エニヨツテ」國ノ態度納、獨逸ノ關係ハ逆轉
 シテ兩國ノ危機迫ルヤ、ソ連ハ側面ヨリ「エニヨツテ」新外閣ヲ鼓吹シ、
 把軸國ニ入ルコトヲ阻止スル政治的意圖ヲ以テ四月五日「モスクワ」
 ニ於テソ連「エニヨツテ」間ニ不侵條約ヲ締結シテ示威ヲ行フ。同
 條約第三條ニハ締約國ノ一方カ第三國カラ侵略ヲ受ケテ場
 合他ノ締約國ハ被侵略國トノ友好關係ヲ維持スル政策ヲ
 堅持スト約シ別ニ共同宣言ヲ發表シテソ連「エニヨツテ」兩國ノ平和

大日本帝國政府

維持ハ兩國ノ月利益ヲアルトノ意ヲ表明シテ。即チソ
 耶ハ「エコー」ノ反獨政策ヲ支持シ。獨逸ガ敵對關係ニ入ル
 場合、依然、友好關係ヲ維持シテ援助政策ヲ示唆シタ。
 「ライノホルカ」進駐ニ對シテ意圖トソ耶ノ蔽ヒ推キ不
 滿ヲ間接的ナカラ嫌カラヒ外交ノ表現ニヨツテ露骨ニ顯
 示スルニシテマ。

二、日總統ハ獨逸ノ「^{キルヒ}」關係ヲ整調スル為メソ耶首相「モート
 フ」來訪ヲ求テ一九〇四年（昭和十一年）十一月十二日モート首相
 伯林着、二日ニ亘リ會談。獨逸ノ開戦ノヒトヲ總統布告並
 二一九〇四年（昭和十六年）十月三日ノ演説ヲ獨逸ソ「ヘルシ」會談
 ニ際シソ耶ガ提示シテ要求シ「露露」シテソノ野心ヲ指摘シタ。
 ソ耶ノ四要求

(一) ドイツハソノ「^{キルヒ}」關係ヲ整調スル為メニソ耶ニ對シ「モート」首相
 伯林着ニ來訪ヲ求メ一九〇四年（昭和十一年）十一月十二日モート首相
 伯林着ニ至リ二日ニ亘リ會談シテ獨逸ノ開戦ノヒトヲ總統布告並
 二一九〇四年（昭和十六年）十月三日ノ演説ヲ獨逸ソ「ヘルシ」會談
 ニ際シソ耶ガ提示シテ要求シ「露露」シテソノ野心ヲ指摘シタ。
 (二) ソ耶ノ四要求
 (三) ドイツハソノ「^{キルヒ}」關係ヲ整調スル為メニソ耶ニ對シ「モート」首相
 伯林着ニ來訪ヲ求メ一九〇四年（昭和十一年）十一月十二日モート首相
 伯林着ニ至リ二日ニ亘リ會談シテ獨逸ノ開戦ノヒトヲ總統布告並
 二一九〇四年（昭和十六年）十月三日ノ演説ヲ獨逸ソ「ヘルシ」會談
 ニ際シソ耶ガ提示シテ要求シ「露露」シテソノ野心ヲ指摘シタ。
 (四) ソ耶ノ四要求

(國定規格55.5x35.5mm)